

平成27年度 県立日立第一高等学校全日制普通科（単位制） 自己評価表

<p>目指す学校像</p>	<p>本校は、創立以来80有余年が経過し、その間、豊かな伝統と歴史をもつ進学校として着実に発展を遂げてきた。さらなる飛躍を期し、進学重視型単位制高等学校として、また「併設型中高一貫教育校」としての特色を生かしながら、21世紀の世界を担いうる有為な人材の育成を目指した学校づくりを行う。 本校の全ての職員は、教育公務員としての自覚と使命感を堅持しながら、教育目標の達成に邁進し、併せて信頼と活力を生む「地域に開かれた学校」づくりを推進する。 また、本校の「自主・自律」の校風を大切にしながら、「文武両道」の精神のもと、特別活動・学習活動の充実を期するとともに、生徒一人ひとりの自己実現を図る。本校のめざす生徒像は次のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学ぶ喜びを知る生徒 2 自立し、生き抜く力を持つ生徒 3 広く社会で活躍できる生徒
---------------	--

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>昨年度は、「進学重視型単位制」を導入して10年目となり、学習指導と特別活動の両立に努め、前年度同様に生徒の進路希望達成に大きな成果を上げることができた。特に国公立大学現役合格者数の割合は約40%を達成できた。</p> <p>今年度は、進学重視型単位制高校としての特色生かして、引き続き「文武両道」の精神のもと、学習指導と特別活動の両立に努めると共に、キャリア教育を充実させ、より一層生徒一人ひとりの自己実現を図る。また、学級減に対応した指導体制を確立し、併設型中高一貫教育校への円滑な移行に努める。</p>	1	<p>単位制高校として、授業を充実させ、生徒の基礎学力を増進し、「個性」を伸ばす教育を推進するとともに、「併設型中高一貫教育校」への円滑な移行に努める。</p> <p>進学重視型単位制の下、少人数授業(数学・体育・英語)の実施、「学習の手引」の活用及び週末の過ごし方の研究を通して、教科指導の充実を図るとともに、「併設型中高一貫教育校」への円滑な移行を推進する。</p>	A
	2	<p>進学指導の充実を図る。</p> <p>キャリア教育の充実及び計画的な進路指導に努めると同時に、課外指導等を通じて学力増進を図り、生徒の進路希望の実現を果たし、国公立大や難関私立大の合格者を増やす。</p>	A
	3	<p>特別活動への積極的な参加を促し、自主性を伸ばし、更なる文武両道の充実を図る。</p> <p>H R 活動・委員会活動の活性化を図るとともに、充実した学校生活を送る。また、学習活動と特別活動の両立を図り、部・同好会活動を推進して県外大会への出場を目指す。</p>	A
	4	<p>教育相談の充実及び「心の教育」の充実を図る。</p> <p>教育相談体制を確立し、体験学習等とおして「心の教育」を推進する。</p>	B
	5	<p>高大連携の推進を図る。</p> <p>茨城キリスト教大学との高大連携を継続して推進するとともに、茨城大学との連携の推進及び内容の充実を図る。</p>	A
	6	<p>国際理解教育の推進を図る。</p> <p>SELHi 事業の成果を一層充実発展させるとともに、海外研修等に積極的に参加し、科学や環境問題にも積極的に取り組む。</p>	A
	7	<p>学校健康教育及び教育環境等の充実を図る。</p> <p>学校保健委員会を一層充実・発展させ、学校保健の推進や校舎内外の安全管理・安全指導の徹底を図る。</p>	A
	8	<p>教育情報の管理と情報の共有化を図る。</p> <p>学校支援システムを積極的に活用し、出席管理や成績処理を円滑に行い、校務処理の軽減化とともに管理の一元化を図る。教育情報ネットワークやインターネットを活用し、本校の情報を積極的に発信する。</p>	A
	9	<p>環境教育の推進を図る。</p> <p>身近な環境の検査や測定を通して環境と人間のかかわりを学び、よりよい環境を創造していこうとする実践的な態度の育成を図る。</p>	B
	10	<p>S S H 事業の推進を図る。</p> <p>カリキュラムの研究・開発を通して、「科学する心」を育成すると共に、国際的な視野を持つ人間の育成を図る。</p>	A
	11	<p>自律的で責任ある生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。</p> <p>公共マナーや社会のルールに則った自律的な生活習慣を育成し、自発的に行動できる生徒を育てる。</p>	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題	
教務部	1	1) 学校行事の内容を検討し、適正な時期に計画実施する。効率的な係分担や役割分担を計画する。特に、新設された行事や時期が変更になった行事について注意し、円滑な運営に努める。	1-11	B	A	A	<p>今年度より、1年次において普通科に加えサイエンス科の募集が始まった。また、附属中学校から高校へ初めて進学した。サイエンス科と普通科は2年次より分かれてそれぞれの教育課程で学ぶ。サイエンス科の特徴をより充実させる教育課程の工夫をより一層進める必要がある。円滑に学校運営を行うためにも、より一層各年次・各分掌との連携が必要である。</p> <p>次年度も、生徒の自己実現のため、授</p>
		2) 各学校行事について、関係する校務分掌との連携を密にし円滑に運営できるよう努める。また、反省事項をまとめ、次年度へ向けて内容を改善していく体制を作る。	1-11	A			
	2	1) 年間をととして、授業時数に偏りのないように調整する。実施の的確な把握に努める。	1,2	B			
		2) 各教科との連携を密にし、時間割編成の効率化に努める。生徒の多様な選択希望に柔軟に対応する。	1,2	A			
	3	1) 校内定期考査および実力考査の適正な実施に努め、公正な評価を行う。	1,2,8	A			
		2) 生徒の出欠については、その出席状況を正確に把握し、各年次・生徒指導部・教育相談部との連携を図る。	4,11	A			
		3) 生徒の多様な希望に答えるため、同時展開の授業をはじめ、授業全体について運営の円滑化や弾力化に努める。	1,2	B			
		4) 奨学金に関する情報を、正確確実に生徒へ提供できるよう努める。	8	A			
	4	1) 新学習指導要領にもとづく教育課程を充実させ、適正な評価の実施に努める。	1,2,8	A			
		2) 学校運営全般において、附属中学校との連携を進める。	1	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題				
5	進学重視型単位制高等学校として、魅力ある創造的な授業を目指し、授業方法および評価の改善や研究に努める。	1) 教科や科目の目標と評価の観点を設定し、学習シラバスに基づいた検証を行う。	2	B	B	B	業時間の確保および学校行事の円滑な運営に努めたい。			
		2) 進路指導部と連携し、3年間をとおした学習計画を充実させる。	2	A				A		
		3) 少人数教育の推進に努め、授業内容について点検や検証を進める。	1	B				A		
		4) 教員間で公開授業の意義を再確認し、それぞれが授業内容の向上に努めるような体制をつくる。	1	B				B		
6	特色ある取り組みとして、現在行っている高大連携や国際交流を積極的に推進する。	1) それぞれの事業について、実施方法や内容について検証するとともに生徒への広報に努める。	5, 6, 10	A	A	A				
進路指導部	1 生徒一人ひとりの目標達成に向け、適切な進路指導に努める。	1) 進路に関する資料の収集・整理と的確な分析により、情報の有効活用を努める。	1, 2	A	B	A		<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導を通しての「人間力」向上 ・変革する大学入試の情報収集とその有効活用 ・多様化する生徒ニーズへの対応 ・生徒情報共有の再確認 ・本校独自の入試対策の蓄積とその継承 ・教職員のさらなる教育スキルアップ 		
		2) 『卒業生からのメッセージ』や『進路資料』等を通して、系統的な進路指導に努める。	1, 2	A					A	
		3) 中教審の答申や大学入試制度に関する情報を積極的に収集し、本校の実態に即した適切な対策を講じる。	1, 2	B					B	
	2 3年間を見通した計画的、系統的な進路指導に努めるとともに、附属中からの継続性とサイエンス科の先進的な取り組みを活かす。	1) 進路相談を充実させ、インターネットの利用や「進路通信」の発行を通して情報の提供に努める。	2	B					A	B
		2) LHR・進学ガイダンス・HRセミナー・大学見学会等を通して、進路意識の高揚を図る。	2	A					A	A
		3) 国公立大学・難関私立大学への合格率がアップするように、年次及び教科との密接な連携を図りながら、充実した課外授業やサテライト講座の活用を通して、進路実現に必要な学力を養成する。	2	A			A		A	
		4) 様々な講演会や体験学習ならびに進路指導を通し、大学の先にある将来をグローバルな視点で選択できる力を養う。	2	B			B		B	
	3 各年次及び各教科と密接な連携を図り、効率の良い進路指導に努める。	1) 外部模試は明確な目的のもとで受験させ、結果を速やかに分析・整理して全職員で情報を共有し、事後指導に活かす。	2	A			A		A	
		2) 小論文や論述問題に関する指導は、各教科と連絡を取り、志望校に応じた指導に努める。	2	B			A		A	
		3) 進路関係の研究会には、第1年次及び第2年次担任も出席し、積極的な情報収集に努める。	2	A			A		A	
	4 教員一人一人が資質の向上に努める。	1) 教員の教科指導のセミナーや研修会に積極的に参加し個人の資質を高めるとともに、他の期教員への還元を努める。	1, 2	A			A		A	
	保健厚生部	1 健康で安全生活を営むために必要な生徒一人一人の能力と、自立的な態度を育てる。	1) 生徒達の日々の健康状態を把握し、適切な健康管理に努める。	7			A		B	A
2) 防災機器の点検・管理、並びに生徒達の危機管理意識の高揚に努める。			7, 9	B	A					
3) 学習環境の衛生管理、及び美化に努める。			7, 9	B	A					
2 学習環境を整え、生徒達が安全で充実した学校生活を送れるように努める。	1) 学校保健委員会と連携し、学校保健活動の推進や校舎内外の安全管理・安全指導の徹底を図る。	7, 9	B	B	B					
生徒指導部	1 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚に努める。	1) 様々な生活指導を通し、自主自立の意義を理解させ、更なる自律心を養う。	4, 11	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ・SNSの利用についての指導 ・登下校時のマナーアップ ・自転車の施錠徹底・自転車保険加入指導 ・拾得物が持ち主に戻る指導 ・「スマホ家庭ルール」の遵守 ・道徳やLHRの一層の充実（自主・自立） 			
		2) 講話やLHRなどを利用し、挨拶や礼法の重要性を理解させ、自発的な励行を促す。	4, 11	B				A		
	2 マナーの向上に努める。	1) 「さわやかマナーアップ運動」を推進するとともに、生徒会と連携し、マナーアップの呼びかけを行う。	4, 11	A				A		
		2) LHRや道徳などの授業を通し、モラルの向上やマナーアップに関する討論や活動を行う。	4, 11	C				B	B	
	3 安全教育の推進と事故防止に努める。	1) 自転車指導・バイク指導等の交通安全指導を定期的に行う。	7, 11	A				B	B	
		2) 薬物乱用防止等の安全教室を行い、生徒の危機対応能力を高める。	7, 11	B				A	A	
		3) 校内研修会を実施し、教職員の危機管理に対するスキルの向上を図る。	7, 11	B				B	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題					
渉外部	1 保護者（家庭）、地域との連絡を密にし、相互理解を深め円滑なPTA活動を行う。	1) 新入生父母と教師の会の運営の充実を図る。PTA総会の行事の企画を充実し、会員の出席を促す。 8	A	A	A	A	PTA会費の値上げ、内規の改正をする。				
		2) ホームルームセミナー、大学見学等学力振興に関わる行事の企画、運営を充実させ、またマナーアップ運動等生徒指導に関わる企画、運営を充実させる。 2, 3	B								
3) 広報紙発行等広報に関わる企画、運営を充実させ、またマラソン大会の体育後援に関わる企画運営を充実させる。 3		A									
4) 県北地区事務局として、各高校との連絡を密にし、地域のPTA活動を活発にする。PTA全国大会、関東大会等各種研修に積極的に参加、研修内容を持ち帰り、PTA活動に活かす。 1, 11		A									
2 各専門委員会活動の調整を行い、生徒の健全育成の一助とする。	1) 総務委員会・全体委員会での十分な審議をし、結果を会員、生徒に知らせ共通理解を図る。決定事項等を各専門委員会の活動に反映させる。 1	A	A	A	A						
特活指導部	1 学校生活において、生徒の集団活動が有意深く、望ましいものとなるように支援する。また様々な活動を通じて、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。また、地域の社会に貢献できる人間の育成に努める。	1) 生徒会や各種委員会の活動を活発化させ、生徒全体が望ましい学校像を実現しようとする意識の向上に努める。 3, 11	A	A	A	A		部活動の適正数について 体育祭の実施について 生徒会活動（特に本部役員）をさらに活性化し、ボランティア活動への積極的参加促進			
		2) HRの諸活動を通して、HRや学校生活における望ましい人間関係を構築させ、あわせて帰属する集団の発展のために必要な、健全な生活態度の育成を目指す。 3, 11	A								
		3) クラスマッチや野球応援など、学校行事への主体的かつ積極的な参加を促し、自分が所属する集団への帰属意識を高め、よりよい学校生活を送るための自主的・実践的な態度の育成を図る。 3	A								
		4) 社会性や人間性を高め、地域社会に貢献できる人間の育成を目指し、ボランティア活動を積極的に推進する。 3, 11	B								
		5) 部活動への加入を促し、その活動を教的・質的に活性化し、あわせて生徒個人の自己実現を支援する。 3, 10	A								
学校図書部	1 図書館利用の活性化と読書活動の充実。	1) 活発で創造的な図書委員会活動ができるように支援する。 3	A	B	B	B	・OA化の実現。 ・資料配置の見直し。 ・情報発信の工夫。				
		2) 部・教科等と指導の連携を図り、豊かな読書活動を目指す。 1, 3	B								
		3) 図書館内の環境整備とOA化を推進する。 7	B								
2 校内放送の充実と放送技術の向上	1) 活発で創造的な放送委員会活動ができるように支援する。 3	B	A	A							
情報部	1 学校管理支援システムの安定した運用の実施	1) 今年度の1年次からサイエンス科が新設されることに伴い、支援システム納入業者等と連携をとって、安定した運用に努める。 8	B	B	B	B			サイエンス科の設置に伴う支援システムの変更点の確認と対応		
	2 情報発信の充実	1) ホームページ等を用いた、校内の情報発信を定常的・積極的に行う。 8	B								
	3 校内ネットワーク快適利用のための整備	1) 校内ネットワークサーバの安定した運用を行うとともに、情報セキュリティの向上に努める。 8	B								
教育相談部	1 生徒の健全な人間形成と自己実現の促進に努める。	1) 校内研修会・Hyper-Quの実施等を通して教師や生徒への支援を行う。 4	B	A	A	A		中学から高校への環境変化についてこれられない生徒のフォローをしっかりと行う。			
		2) スクールカウンセラーや担任・年次と連携しながら、生徒及び保護者への援助活動を行う。 4	A								
サイエンス部（SSH）	1 科学の学習に主体的に取り組む生徒、研究成果を積極的に発信できるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けた生徒を育成する。	1) 大学や研究機関、「日立理科クラブ」など地元NPO団体や企業とのつながりを活かし、科学に対する興味・関心を高め、科学に主体的に取り組む生徒を育成する。 10	A	B	A	A				「サイエンス科」2クラスがSSH事業となるにあたり、適切なSSH事業となるように、研究開発を進めていく。	
		2) 「科学研究発表会」等への参加を通して、「科学する心」を深めるとともに、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を向上させる。 10	B								
		3) 「白聖ネイチャースクール」「白聖ジュニアセミナー」を通し、中高連携するとともに、コミュニケーション能力を向上させる。 10	B								
	2 将来、世界へ発信したり、世界で活躍できる生徒を育成する。	1) 「科学英語」、「海外サイエンスセミナー」、「白聖セミナーⅠ」などにおいて、各教科・分掌と連携を図り、内容を充実させ、国際的な視野やコミュニケーション能力の向上を図る。 5, 6, 10	B				A				A
	3 理数系の分野で力を発揮できる生徒を育成する。	1) 中高一貫校としてのサイエンスリテラシー育成教育の研究に努める。 9, 10	B				A				A
		2) 高大連携・接続事業を通して、科学に対する興味関心を高めさせ、サイエンスリテラシーの育成に努める。 5, 10	A				A		A		
		4 SSH活動の活性化を図る。	1) 「SSH中間報告会」「SSH科学研究成果発表会」を実施することにより、校内外に本校の活動を広めるとともに、SSH活動の活性化を図る。また、SSH通信やHPなどを活用し、広報活動に取り組む。 10				C		A		A
	2) SSHの事業を通し、科学系部活動の活性化を図る。 3, 10		A				A		A		
	3) 教育課程の研究に努める。 2, 10		B				A	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題								
サイエンス部 (サイエンス科)	1 サイエンス科から日本そして世界をリードする科学技術者や地域医療等に貢献する人材の育成を図る。	1) 魅力あるサイエンス科とするための各種検討・企画・運営等を行う。 1,2	B	B	B	B	・魅力あるサイエンス科とするための教育課程および各種企画（メディカルセミナー、サイエンスセミナー等）の検討をする ・学習意欲の高揚を図るとともに学力を向上させるための工夫改善が必要である ・体系的組織的な広報活動を図る							
		2) 地域や大学の医師による講義、医療機関等（国内）のメディカルセミナーを企画・立案する。 2	B					B						
		3) 科学者や研究者による講義、研究機関等（国内）のサイエンスセミナーを企画・立案する。 2	B					B						
		4) 産官理工学、医歯薬系大学に進学できる力を育成するため、年次・進路指導部と連携し学習意欲の高揚を図り、学力の充実に努める。 1,2	B					B						
	2 サイエンス科の広報活動を充実させる。	1) 体系的組織的な広報活動を行い、本校サイエンス科の教育活動について地域社会・近隣小中学校等への周知を図る。 8	B					B						
		2) 『サイエンス科通信』（仮称）を発行し正しい情報発信を行うとともに、サイエンス科の啓発活動を行う。 8	B					A	A					
		3) 本校HP内容の更新に努め、常に最新の情報を掲載する。 8	B					B	B					
第1年次	1 社会を構成する一員としての自覚と規範意識を身に付けさせ、自己指導能力を育成する。	1) 自主・自律の校風の下、規範意識を高め、生徒自らが良好な学校環境を作れるよう指導・助言を行う。 4,7,11	B	B	A	A	・個に応じた進路指導をしていく中で、特に最難関大学に合格するための進路指導を充実させる。 ・中堅年次として、部活動や学校行事を盛り立てるべく、リーダーシップや協調性を高めさせる。 ・「道徳プラス」において道徳教育の充実を継続させ、実践的な力を養わせる。							
		2) HR活動や道徳をとおし、マナーや倫理観の向上など、心の教育を充実させ、自己指導能力を高める。 4,11	B					A	A					
	2 進路指導を充実させ、進路に対する意識を高め、より高い目標を持つ姿勢を養うとともに、世界的な視野を持ち、国際社会に貢献できる人材を育成する。	1) 進路指導部との連携強化・個別面談の実施・情報の周知・共有化など、日頃の進路指導を充実させ、進路に対する意識を強める。 2,5	A					A	A					
		2) HRセミナーや大学見学会をとおして、職業観の育成及び上級学校・学問の理解を図り、高い進路目標を持たせると共にその実現に向けた幅広い知識と教養を身に付けさせる。 2,5	B					A	A					
		3) SSH事業や国際交流事業、道徳の授業をとおし世界的な視野を広げ、国際社会で活躍できる表現力・英語力・技能を持つ人材の育成に努める。 5,6,10	B					A	A					
	3 授業を大切に学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けた確かな学力を育成する。	1) 授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、家庭学習の習慣を身につけさせることにより学力の向上を図る。 1	A					A	A					
		2) 基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題・課外・校外模試等への積極的な取り組みを促す。さらに学習調査などをもとに生徒個々に対しアドバイスを行っていく。 1	A					A	A					
		3) 授業の大切さを強く意識させ、意欲を高められる授業を展開するため、研究・改善を行い教科指導の充実を図る。 1	B					A	A					
	4 部活動やホームルーム活動などの特別活動や学校行事への積極的な参加により、愛校心・協調性・社会性を育成する。	1) 部活動や生徒会活動、その他の学校行事等への積極的な参加を促し、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、心身にバランスのとれた人間形成を図る。 3	B					B	B					
		2) 課外の実施時間を早朝に設けるなど、部活動と課外活動を両立できる環境を整える。 3	A					A	A					
	第2年次	1 社会を構成する一員としての自覚と規範意識を身に付けさせ、自己指導能力を育成する。	1) 自主・自律の校風の下、規範意識を高め、生徒自らが良好な学校環境を作れるよう指導・助言を行う。 4,7,11					A	B	A	A	進路実現に向け次のことを特に強化していく。 ・夏休み前までに、各教科において「基礎力の確立」を果たす。 ・担任の面談をもとに「適切な志望校」を決定させる。 ・学校行事やHR活動を通して「人としての成長」を目指す。		
			2) HR活動や道徳をとおし、マナーや倫理観の向上など、心の教育を充実させ、自己指導能力を高める。 4,11					B					B	B
		2 進路指導を充実させ、進路に対する意識を高め、より高い目標を持つ姿勢を養うとともに、世界的な視野を持ち、国際社会に貢献できる人材を育成する。	1) 進路指導部との連携強化・個別面談の実施・情報の周知など、日頃の進路指導を充実させ、進路に対する意識を強める。 2,5					B					A	A
			2) HRセミナーや目標とする大学のオープンキャンパスの参加をとおして、職業観の育成及び上級学校への理解を図る。さらに、高い進路目標を持たせると共にその実現に向けた幅広い知識と教養を身に付けさせる。 2,5					A					A	A
			3) SSH事業や国際交流事業をとおし世界的な視野を広げ、国際社会で活躍できる表現力・英語力・技能を持つ人材の育成に努める。 5,6,10					A					A	A
			4) 新教育課程導入に伴う大学受験科目変更への対策など、進路指導部と連携し、組織的に取り組む。 2,5					B					A	A
3 授業を大切に学習活動を確立させ、自主的に取り組む態度と進路実現に向けた確かな学力を育成する。		1) 授業は予習と復習を含め成り立っていることを理解させ、家庭学習の習慣を身につけさせることにより学力の向上を図る。 1	B	B	B									
		2) 基礎学力の定着と学習活動のステップアップを図るため、週末課題・課外・校外模試等への積極的な取り組みを促す。さらに学習調査などをもとに面談の機会を数多く設け、生徒個々に対しアドバイスを行っていく。 1	B	B	B									
		3) 授業の大切さを強く意識させ、意欲を高められる授業を展開するため、研究・改善を行い、教科指導の充実を図る。 1	A	A	A									
4 中堅年次として、部活動やホームルーム活動などの特別活動や学校行事への積極的な参加により、愛校心・協調性・社会性を育成する。		1) 部活動や生徒会活動、その他の学校行事等への積極的な参加を促し、協調性や社会性の向上とリーダーシップを育成し、心身にバランスのとれた人間形成を図る。 3	A	B	B									
		2) 課外の実施時間を早朝に設けるなど、部活動と課外活動を両立できる環境を整える。 3	A	A	A									

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題					
第3年次	1 高校生活の集大成として、現在そして未来において自らが担うべき役割を自覚させ、自主的・自律的に行動する力をつけさせる。	1) 最高年次としての責任を自覚させ、自らの生活を律し、進んで学校環境の改善に努める姿勢を養う。 4. 7. 11 B	B	A	A	・新教育課程に合わせた教科書終了から入試までのシステムの確立 ・教員のマンパワーが少ない中で生徒の個々に応じた指導をどのように確立していくか ・3年間を通したキャリア教育の確立					
		2) 日々の生活の中で、自己と周囲との関わりを意識させ、他者を尊重し、ともに向上する意欲と態度を養う。 4. 11 A									
		3) LHR・個別面談等を通じ、生徒の自己理解の深化を促し、主体的に生きる姿勢を身につけさせる。 4. 11 A									
	2 個々の進路目標の実現をめざし、進路指導部との連携のもと、組織的・計画的な進路指導を行う。	1) 授業の重要性を再認識させるとともに、課外・サテライト・校外模試への積極的な参加と、その有効活用を図る。 1. 2 B									
		2) 朝や放課後の自習の励行、自習室の活用促進により、自学・自習の習慣を定着させる。 1. 2 A									
		3) 進路情報や指導法の共有化を図り、生徒の多様な学力・進路希望に対応できる指導体制を構築する。 2. 5. 8 A									
	3 特別活動やホームルーム活動への主体的な参加を促し、集団に寄与する精神を育てる。	1) 学習活動と特別活動の両立をめざし、心身の調和のとれた人間形成を図る。 1. 3 C									
		2) 各種の学校行事に主体的かつ積極的に参加し、これを主導する態度を養う。 3 A									
	4 自然科学や人文科学など、学問に対する興味関心を育て、国際社会に貢献できる人材の育成に努める。	1) 基礎・基本を重視しつつ、その応用を視野に入れた指導を通して、一人一人の探求心や科学的思考力を高める。 5. 9. 10 C									
		2) 授業やLHRを通じて、広い視野や高いコミュニケーション能力など、国際社会で活躍できる力の養成に努める。 2. 6 B									
	国語	1 現代文・古文・漢文・表現の四領域のそれぞれの基礎学力を確立させ、総合的な言語能力を育成させる。また、自然科学系の作品・文章に親しませる。					1) 問題集を持たせて考査ごとに提出させ、実力考査と定期考査の範囲の一部とし、自学自習の習慣づけを図る。 1. 2 A	B	A	A	内進生の中学時の学習実態を把握した上での、1年次の授業展開。
							2) 校内研修会（教科会）等で、当面する問題を話し合い、教科指導の向上を図る。 1. 2 B				
3) 年次に応じた読書指導と表現指導をし、言語能力の向上を図る。 1. 2 B											
4) レポートを提出する際に、幅広く自然科学の分野などからも作品を選ばせる。 1. 2 A											
2 現代文・古文・漢文・表現の四領域のそれぞれの応用学力を養成させ、読解し、鑑賞し、表現する能力を高めさせる。		1) 問題集を持たせて考査ごとに提出させ、実力考査と定期考査の範囲の一部とし、自学自習の習慣づけを図る。 1. 2 A									
		2) 校内研修会（教科会）等で、当面する問題を話し合い、教科指導の向上を図る。 1. 2 B									
		3) 年次に応じた読書指導と表現指導をし、論理的な思考力・表現力を養成させる。 1. 2 B									
3 現代文・古文・漢文・表現の四領域それぞれの受験に対応した学力をいっそう高めさせ、言語文化に対する広くかつ深い関心を持たせる。		1) 受験に対応した問題演習により、総合的な学力を高めさせる。 1. 2 A									
		2) 校内研修会（教科会）等で、受験対策について話し合い、教科指導力をさらに高めさせる。 1. 2 B									
		3) 年次に応じた読書指導と表現指導をし、小論文に対応した記述力を高めさせる。 1. 2 B									
地歴公民科		1 中高一貫校として整備が進む中、工夫された教育課程をとおり、生徒の実態に合わせた学力の向上に努める。実施にあたっては、各年次や分掌と協力し、国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。	1) 第1年次および2年次においては、望ましい学習習慣を確立させ基礎基本の定着をはかる。第3年次においては、授業を基本として学習を進めることその他に、多様な希望に応えるため、個別指導や課外指導を積極的に行う。 1. 2 A	A	A	A	現状より高度な受験指導の研究				
			2) 附属中学校の授業実施者と情報交換を行い、高校入学までの学習内容の把握に努める。 1. 2 B								
	3) 各科目とも、授業内容は大学入試センター試験以上の水準を維持する。3年次では11月末までに教科書の範囲を終了させ、発展的な学習に移行し生徒の実践力を高める。 1. 2 A										
	4) それぞれの科目の授業をとおり、科学技術と人間生活について考えさせ、国際社会について考察する能力を身につけさせる。 1. 10 B										
	2 地理歴史科では、生徒の多様な希望に応えるよう、授業内容を工夫改善する。様々な視点を学ぶことにより多角的な思考力を涵養し、国際社会の中で主体的に生きる資質と能力を養う。	1) 1・2年次の授業では、地理や歴史に対する興味関心を喚起し、基礎基本の習得に努めさせる。世界の諸課題について、地理的に考察させるとともに歴史的な背景を理解させ、現在行われている対策について分析する方法と能力を身につけさせる。 1. 2. 6 A									
		2) 3年次の授業では、1・2年次の内容基礎としてより発展的な知識および技能の習得を図り、大学受験に対応できる能力を養う。自らの在り方・生き方を考察するなかで、世界の諸課題に対する論理的思考力を養う。 1. 2 A									
	3 公民科では、生徒の多様な希望に応えるよう、授業内容を工夫改善する。政治・経済・倫理をより具体的に学ぶことにより、社会や自己の在り方について深く考察できる資質と能力を養う。	1) 1年次の「現代社会」においては、民主政治における個人と国家の在り方を学習させ、国際社会の一員としての自覚を形成させる。 2. 11 A									
		2) 3年次の「政治経済」「倫理」では、教科書の内容の定着をはかるとともに、課題学習や論述指導を行い、国際社会の中で自らの在り方・生き方を深く考察させる。また、授業内容は大学入試センター試験以上の水準を維持する。 2. 6 A									
	1 3年間を見通した学習計画の作成	1) 1年次（高入） 基礎の徹底を図り、基礎力・計算力の育成を図る。 2 B	A					A	A	A	・高入生と内進生に対する指導の研究。 ・課外のあり方の検討
		1年次（内進） 基礎力・計算力の育成を図るとともに問題演習を通して応用能力を養っていく。 2 B									
		2) 2年次 教科書の内容の理解の徹底を図り、さらに、問題演習を通して応用能力を養っていく。 2 B									
		3) 3年次 問題演習を通して、文系はセンター試験対策、理系はセンター試験対策および二次対策を行う。 2 A									

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題	
数 学	2 指導すべき基本事項の精選と、その理解の徹底	「日々の演習（3年次）」により基礎力を培う。「週課題（2年次）」を通して基礎力の定着を図る。1年次は「週課題」を課し、課題を範囲とした週テストを行う。	1.2	B	B	B	
	3 計算力の育成						
	4 成績上位者の学力向上と成績中位者の基礎学力向上	1) 成績上位者への個別対応。	1.2	B			
		2) 個別対応による成績中位者への主体的な学習態度の育成。	1.2	B			
	5 知識量に頼らない応用力の育成	1) 予習・復習の習慣化の徹底。	1.2	B			
		2) 数学Ⅲの授業と既習事項の入試問題解法の実力養成。	1.2	B			
	6 既習分野の実力育成	課外等により1・2年次の学習内容を復習し、また現学習内容の理解を深めることにより、次年度につながる学力を養成する。	1.2	B			
	7 「科学する心」の育成	白聖数学等を通して、科学に関する興味関心を喚起し、論理的思考力・創造力の養成を目指す。	1.10	B			
8 中高6年間を通じた指導の研究	発達段階に応じた指導内容や指導方法の研究を通して、中高一貫教育の充実を図る。	1	B				
理 科	1 自然現象の中に見られる物理法則の学習を通して、科学的に思考する能力と態度を育てる。	演示実験や生徒実験を多く行い、物理の基本概念をつかませることに努める。	1.2.9	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次白聖理科の指導内容の検討 ・二次試験を見据えた受験指導の検討
	2 身の回りにある物質に対する興味・関心を持たせ、化学的に探究する能力と態度を育てる。	実験や補助教材を併用して、物質の構造や物質の変化等がわかりやすい授業をめざす。	1.2.9	B			
	3 生物学的に物事を探求する態度を育てるとともに、基本的な生命の概念や生命現象の原理・法則を理解させる。	観察・実験を通して生命や生命現象に興味を持たせるとともに、具体的なイメージを持たせる。	1.2.9	A			
	4 身の回りの自然や物事を探求する態度を育てるとともに、地学的な知識・原理・法則を身につけさせる。	観察・実験を通して地球や自然現象についての概念を持たせることに努める。	1.2.9	B			
	5 センター試験及び二次試験に十分対応できる学力を身につけさせる。	二次対策を見据えた問題演習に取り組み、受験対策に努める。	2	C			
	6 新教育課程に即し、入試にも対応した科学的知識、教養を身につけさせる。	受験も考慮した、新教育課程における授業展開・学習指導法の研究・実践に努める。	1.2	B			
	7 科学的思考力・知的好奇心・探究心を育て、「科学する心」を育成する。	豊かな科学体験を通して個々の興味・関心を高め、知的好奇心の高揚に努める。生徒が互いに向上できるカリキュラムの検討に努める。プレゼンテーション能力の育成を目指した指導を推進する。	1.9.10	B			
保 健 体 育	1 個人及び社会生活における健康安全についての理解を深めさせるとともに、健康を高める能力と態度を育てる。	1) 個人としてだけでなく、これからの社会を担う一員として健康について考える重要性を理解させる。	1	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保健では、健康についての正しい理解と適切な意思決定及び行動選択を育む授業について、教材の工夫などを検討したい。 ・体育では体力と技能の向上を図りながら、自己と他者の長所や課題を認識しながら、学び合う授業の展開を目指したい。 ・体育理論ではスポーツの意義や歴史、文化的特徴を理解するとともに、茨城国体や東京オリンピックに向けて、ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツライフを設計する礎を築かせたい。
		2) 課題解決型グループ学習を通して、健康課題に適切に対応する能力を育てる。	1	B			
		3) 視聴覚教材の活用や実習を通して、健康安全に関する知識や技能を習得させる。	1.7	B			
	2 運動技能を高め、強健な心身の発達を促すとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じてスポーツができる能力と態度を育てる。	1) 体づくり運動、水泳、長距離走を重点種目に設定し、意欲的に取り組ませるとともに、体力の向上を図る。	1	A			
2) 各種目において、反復練習や課題練習を通して、運動技能を高める。		1	B				
3) 各種目において、作戦を立て、攻防の仕方を工夫し、練習やゲームができるようにする。	1	B	B	A	A		
	4) 運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができるようにする。	1				B	
芸 術	1 感性を高め、芸術の基礎的諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。	1) 芸術についての総合的な理解を深め、主体的な学習ができるように、適切な題材設定や指導に努める。	1	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術系進路希望者の把握・指導の徹底 ・内進高入混合クラスと高入のみ単体クラスの指導の在り方の研究
		2) 表現と鑑賞のバランスのとれた授業展開を工夫して、芸術的な素養を身に付けさせる。	1	A			
2 芸術系進路希望者の実力養成。	個別指導を充実させて実技試験に対応できる表現力を養う。	1.2	B				
1 英語を読み、書き、聞き、話す活動を通して、実践的コミュニケーション力の基礎を習得させる。	1) 英語コミュニケーションⅠでは、少人数授業の利点を生かし、生徒の活動をベースとする授業を行い、内容理解力とともに自己表現力の育成に努める。	1	A	B	A	A	
	2) 英語表現Ⅰでは、ALTとの効果的な連携を図り、4技能の習得を意識しながら、基本的な文法や語彙の運用力を養成する。	1	A				
	3) 授業では、ペアワークやグループワークを活用し、4技能の統合を意識した英語活動を取り入れ、審査問題の工夫に努める。	1	A				
	4) 授業の補完的・発展的な学習として、課題(週末課題・宿題)や副教材を活用し、家庭学習の効果的な動機付けを図る。	1	A				
	5) 授業や課題を通して、従来よりも英語のインプット量を増やし、自然科学系の英理解力の強化に努める。	1.2	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策	前期評価	後期評価	年間評価	次年度（学期）への主な課題			
英語	2 読解力・表現力の育成を中心に、実践的な英語コミュニケーション能力の基礎を育成する。	1) 英語コミュニケーションIIでは、教科書の訳読に終始せず、タスク活動をベースとした授業を行い、英文理解力と自己表現力の養成を図る。 1	A	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に、「生徒が必然的に英語を使う時間」いかに増やすか、よりコミュニカティブな授業を次年度も模索していく。 ・読んで理解した英文について、書く・話すような「リプロダクション活動」をもっと積極的に取り入れたい。 ・「RETELLING」活動を通し、できるだけ「授業を英語」でするようなワーシートの工夫に努め、「ESSAY WRITING」「ESSAYの添削」と「ディベート活動」をもっと有機的に行う。 		
		2) 英語表現IIでは、基本文法や語彙を反復練習し、ディベートなどの実践的な言語活動を通して、英語表現の基礎を育成する。 1	B						
		3) ペアワークやグループワークを活用し、授業の活性化と4技能の統合を意識した英語活動を取り入れる。 1	A						
		4) 授業の補完的・発展的な学習として週末課題や副教材などを活用し、家庭学習の効果的な動機付けを与える。 1	B						
		5) 授業や課題を通して、従来よりも英語のインプット量を増やし、自然科学系の英文理解力の強化にも努める。 1,10	B						
	3 大学入試にも対応できる、実践的な英語理解力と表現力を養成する。	1) 英語コミュニケーションIIIでは、教科書を中心に十分なインプットを行い、要約の作成など実践的な英文理解力の養成に努める。 1	A	A					
		2) 英語表現IIでは、語彙や文法の正確な運用力を育成し、様々な演習課題を通して実践的な英語表現力の養成に努める。 1	B	B					
		3) 自習課題や課外授業を活用し、生徒の英語力向上を効果的にサポートする。 1	A	A					
		4) 考査や小テストの内容や実施形態を工夫し、実践的な英語力養成への効果的な動機付けを図る。 1,2	B	B					
		5) 授業の内容や実施形態を工夫し、個別指導の充実も図りながら、効果的な入試対策指導を行う。 1,2	A	A					
家庭科	1 生活の営みを総合的に捉え、生活に必要な知識と技術の習得	講義・実験・実習を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 9	B	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ知識・技術を、家庭生活に取り入れ、実践的に使えるよう身につけさせる。 		
	2 男女が協力して家庭や地域との生活を創造する能力と実践的な態度の育成	課題研究・実習を通して、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 9	B					A	A
	3 家庭系進路希望の実力養成	個別指導を通して、小論文・面接試験に対応できる応用力を養う。 2	B					B	B
情報	1 情報社会に参画する態度の育成	講義・実習を通して、情報社会における基本的な知識と技術、モラルを習得させる。 9,11	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの確立に、さらにつとめる。 ・コミュニケーション能力の更なる育成に努める 		
	2 情報活用実践力の育成	実習を通して問題解決の手順を理解し、適切な情報手段を判断・活用し解決できる能力の養成に努める。グループ作業・プレゼンテーション活動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。 1,9	B					B	B
	3 新教育課程及び入試問題の研究	新教育課程における授業展開・学習指導法の研究・実践に努めると共に、入試問題についても研究を深める。 1,2	B					C	C

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分